

## 第14回 産業保健調査研究会

# 群馬県における職場ストレスと うつ状態に関する疫学調査 ～10年後の変化～

群馬産業保健推進センター

○竹内一夫、真下延男、椎原康史、  
松岡治子、浅野弘明、太田晶子

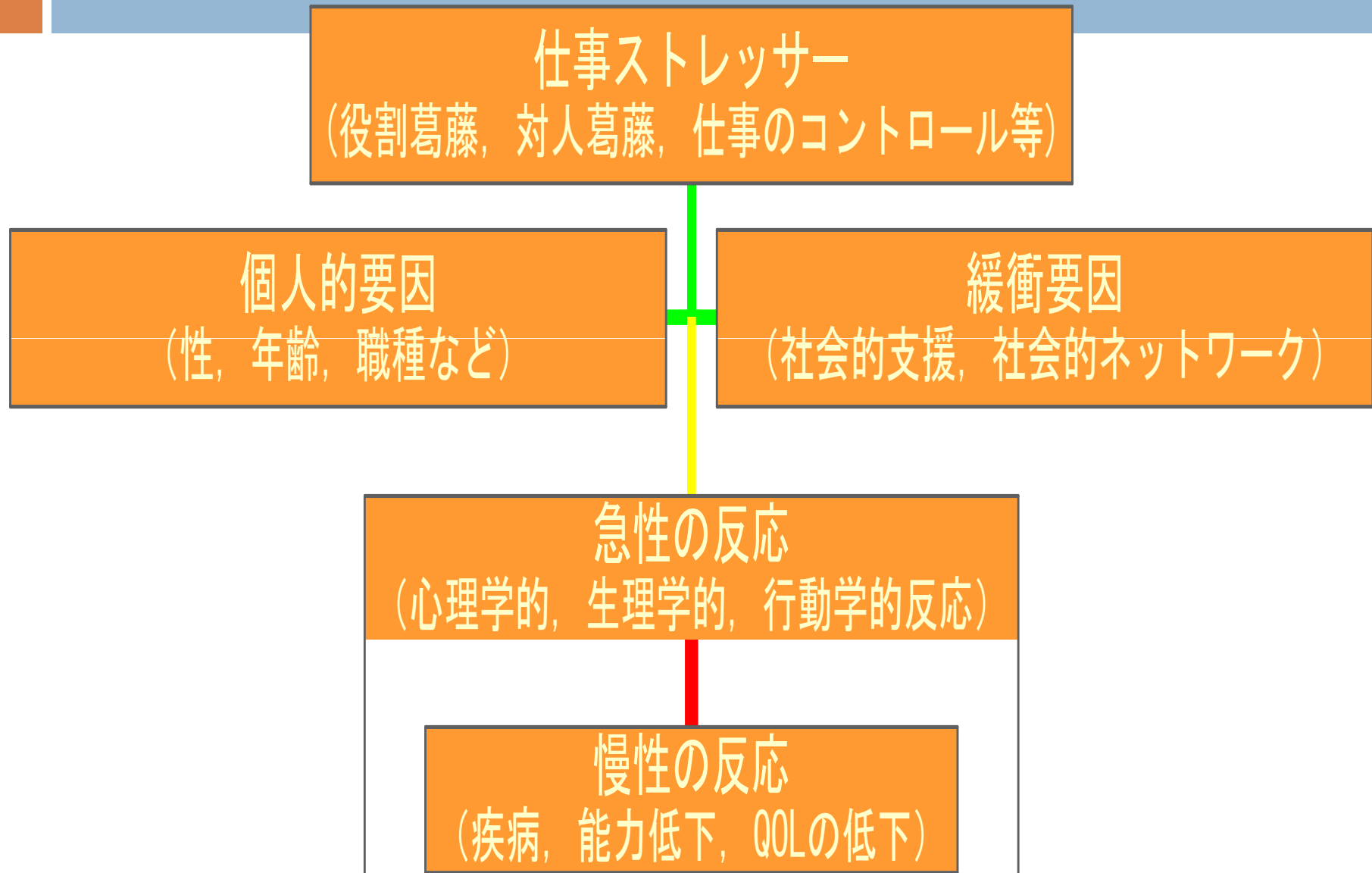
# 経緯

97-98年にかけて自殺者の急激な増加（3万人突破）が見られた。これを受け98年秋、群馬産業保健推進センターの調査研究として、当時普及し始めていたNIOSH（米国労働安全研究所）の仕事ストレスモデルに基づく職場メンタルヘルス調査を群馬県下の4企業（対象者 約1,000名）で実施した。

その後10年を経て、08年末に同じ企業を対象に、ほぼ同じ内容の調査を実施し、その結果を比較した。なお、計画時点ではリーマンショックに始まる経済恐慌は想定外であった。

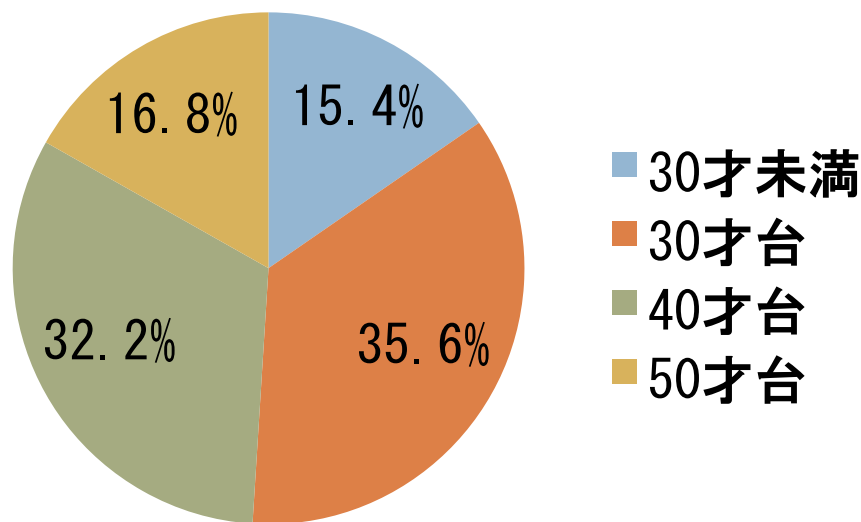
今回はデータ数の関係で、60歳未満の男性労働者についてのみ比較した（98年 680人, 08年 692人）。

# 仕事ストレスモデル (NIOSH) (一部割愛)

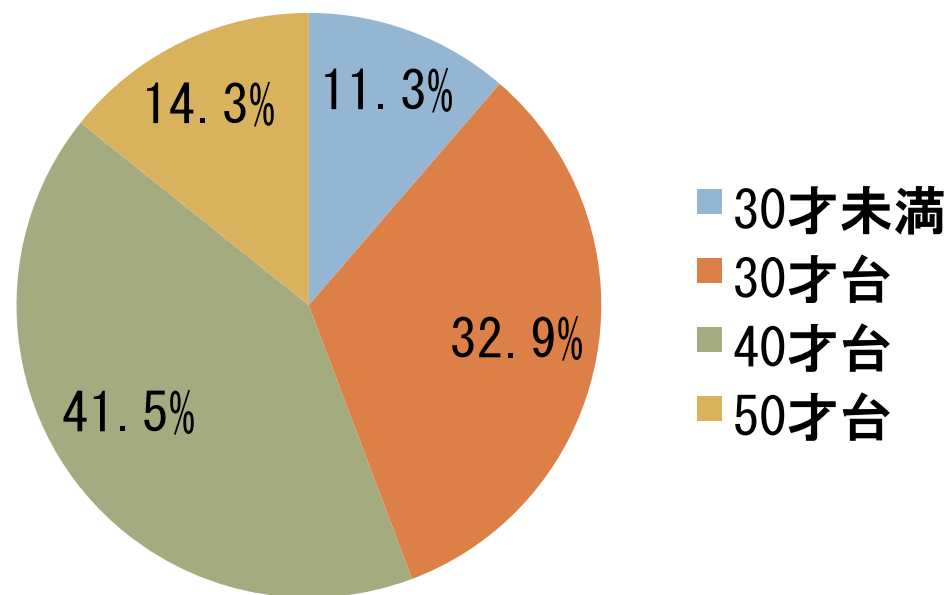


# 調査結果(1)対象者の年齢構成

年齢構成(98年 男)



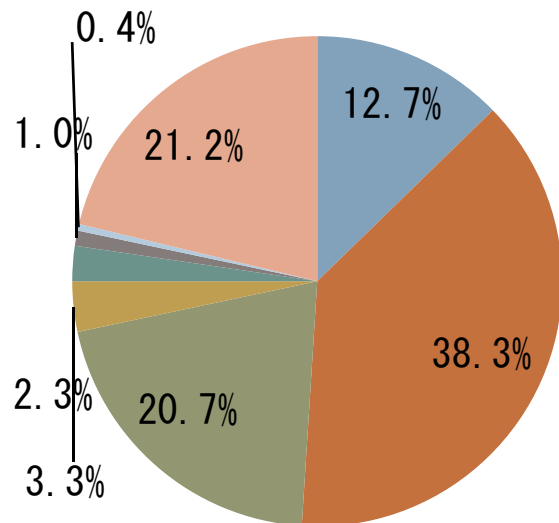
年齢構成(08年 男)



98年調査に比べ、08年調査の方が、やや若年層が少ない

# 調査結果(2)職種

職種(98年 男)



■管理職

■専門・技術・研究

■事務

■販売・営業

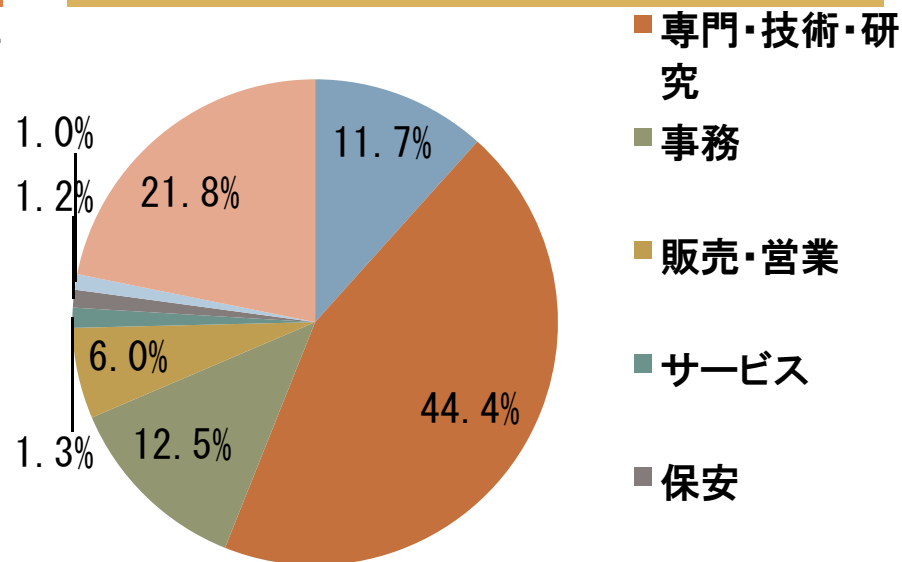
■サービス

■保安

■運輸・通信

■その他

職種(08年 男)



■管理職

■専門・技術・研究

■事務

■販売・営業

■サービス

■保安

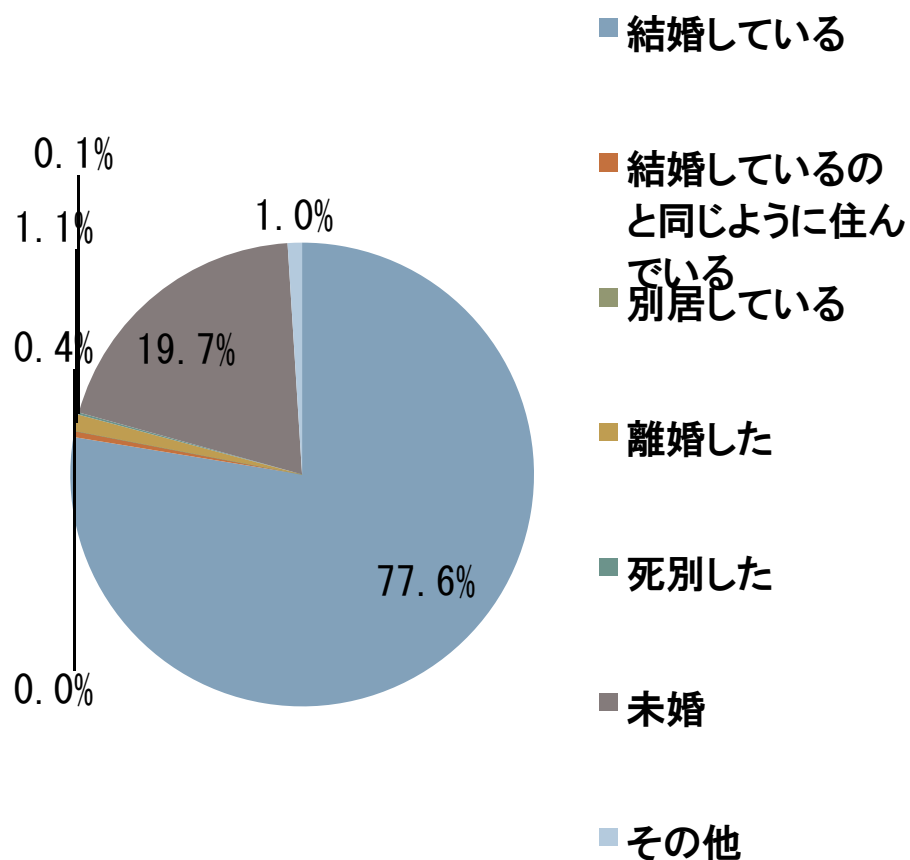
■運輸・通信

■その他

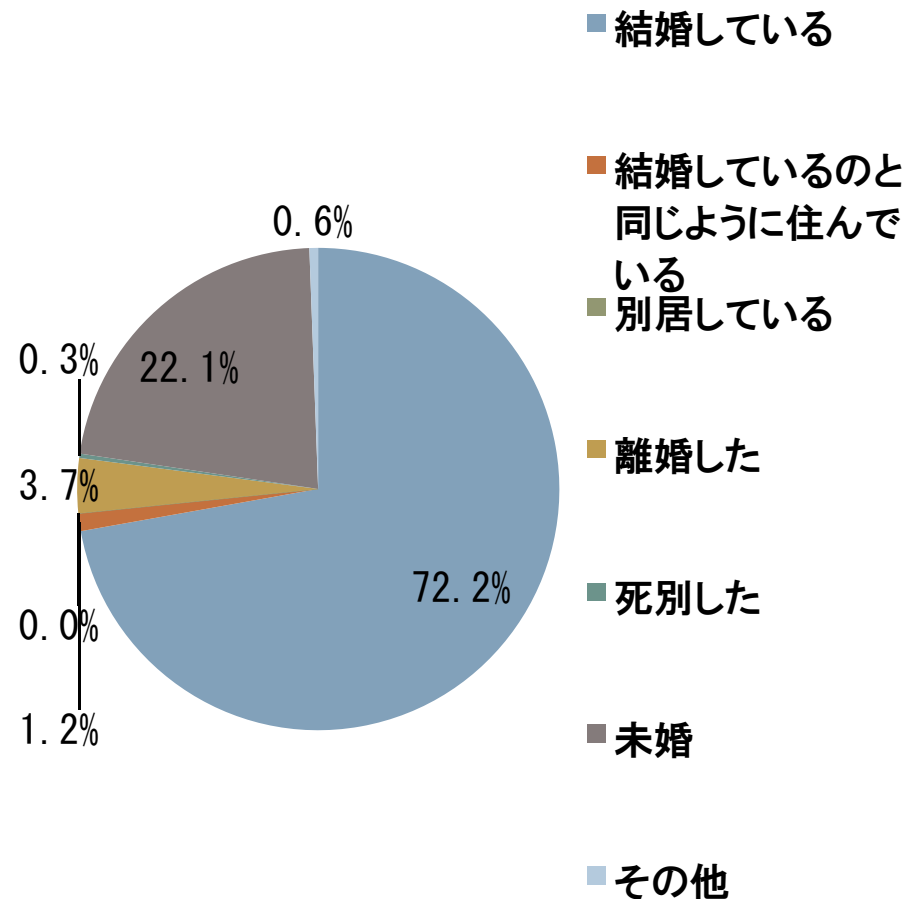
98年調査に比べ、08年調査の方が、やや専門技術職が多く、事務職が少ない

# 調査結果(3)婚姻状況

## 婚姻状況(98年 男)



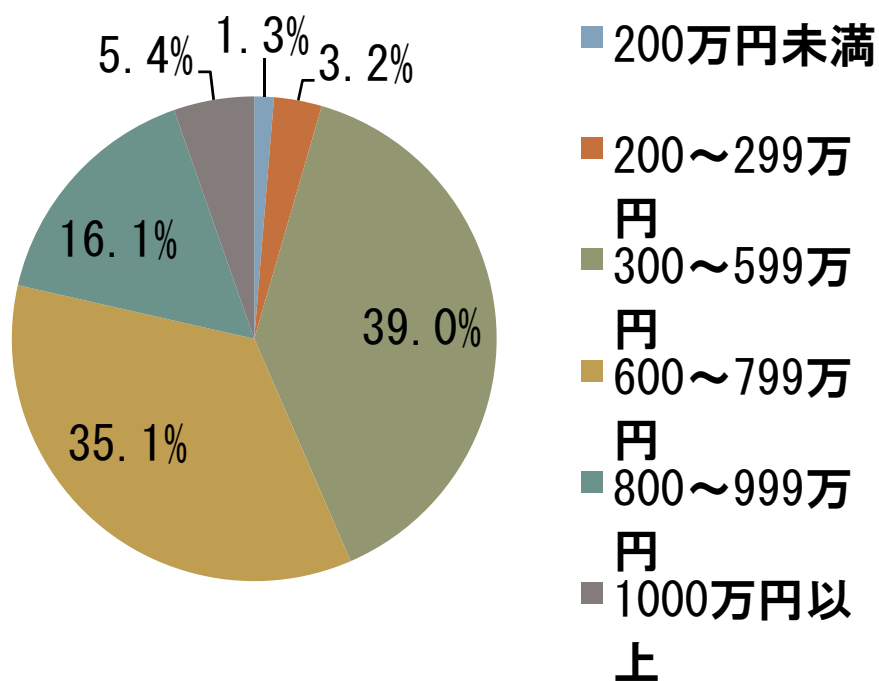
## 婚姻状況(08年 男)



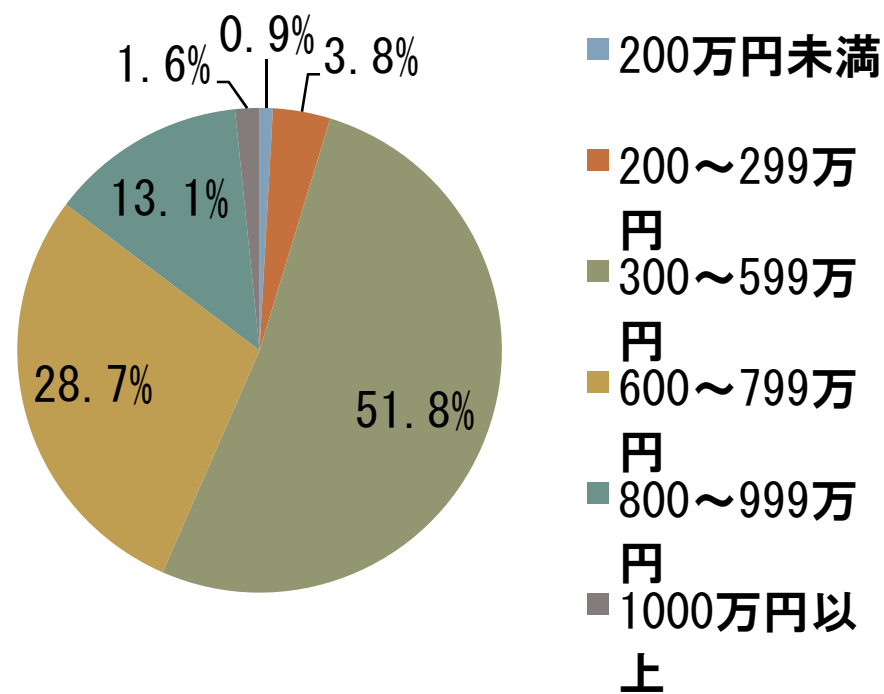
98年調査に比べ、08年調査の方が、やや未婚者が多い

# 調査結果(4)年収

年収(98年 男)



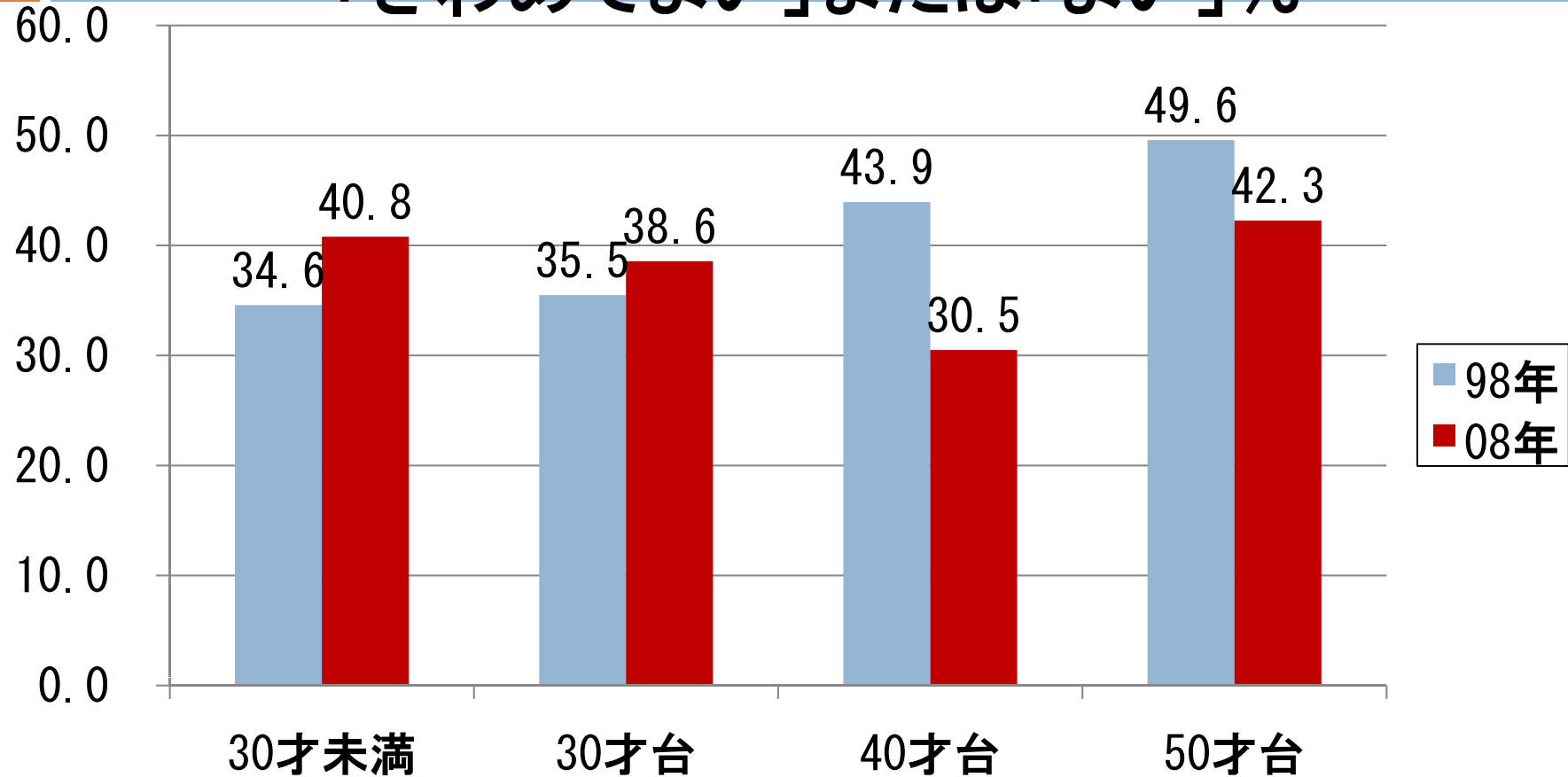
年収(08年 男)



98年調査に比べ、08年調査の方が、年収が少ない

# 調査結果(5)心の自覚的健康度

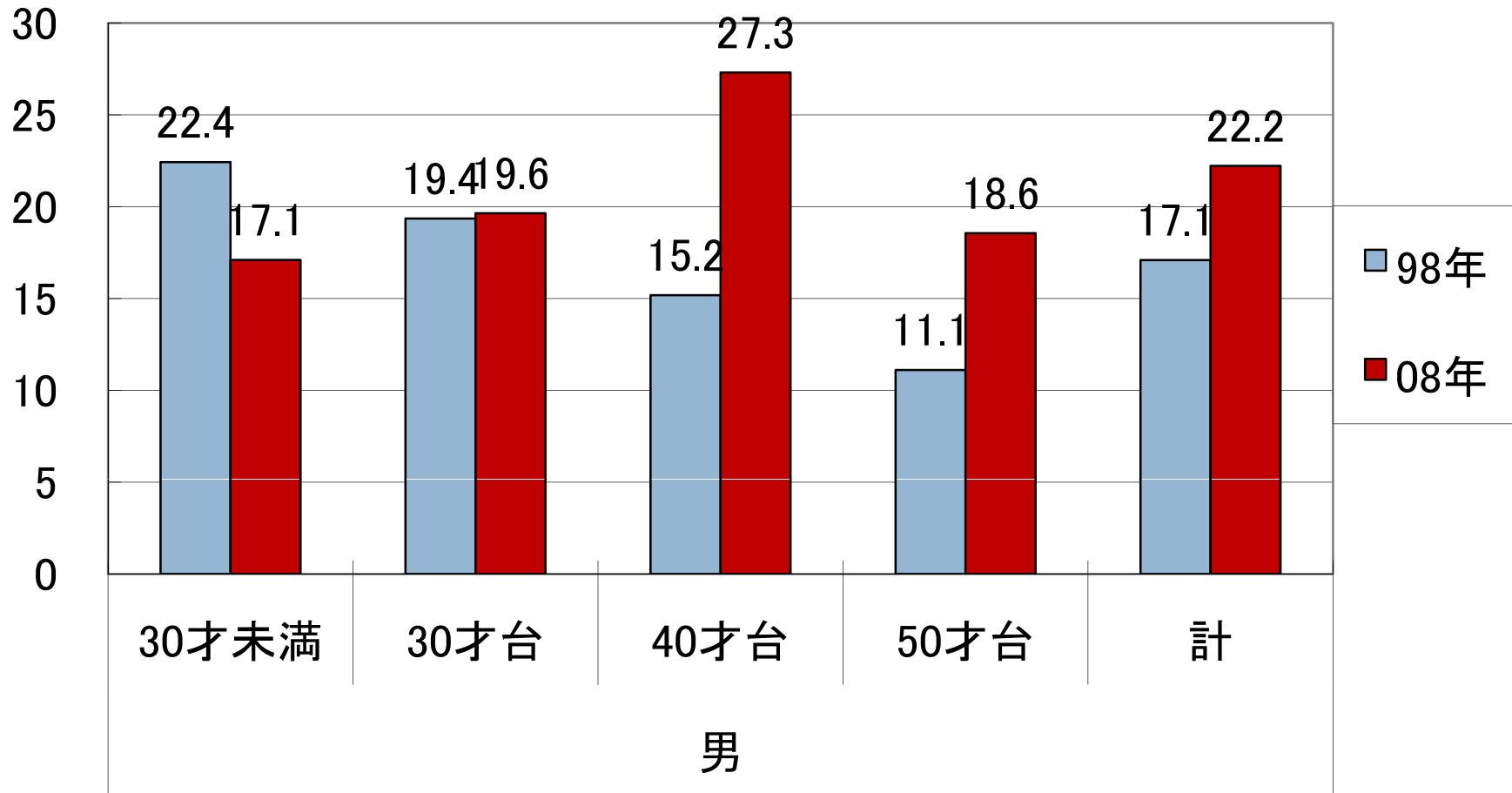
「きわめてよい」または「よい」%



年齢別に見ると、98年調査に比べ、08年調査の方が、中高年齢層で心の自覚的健康度が悪い

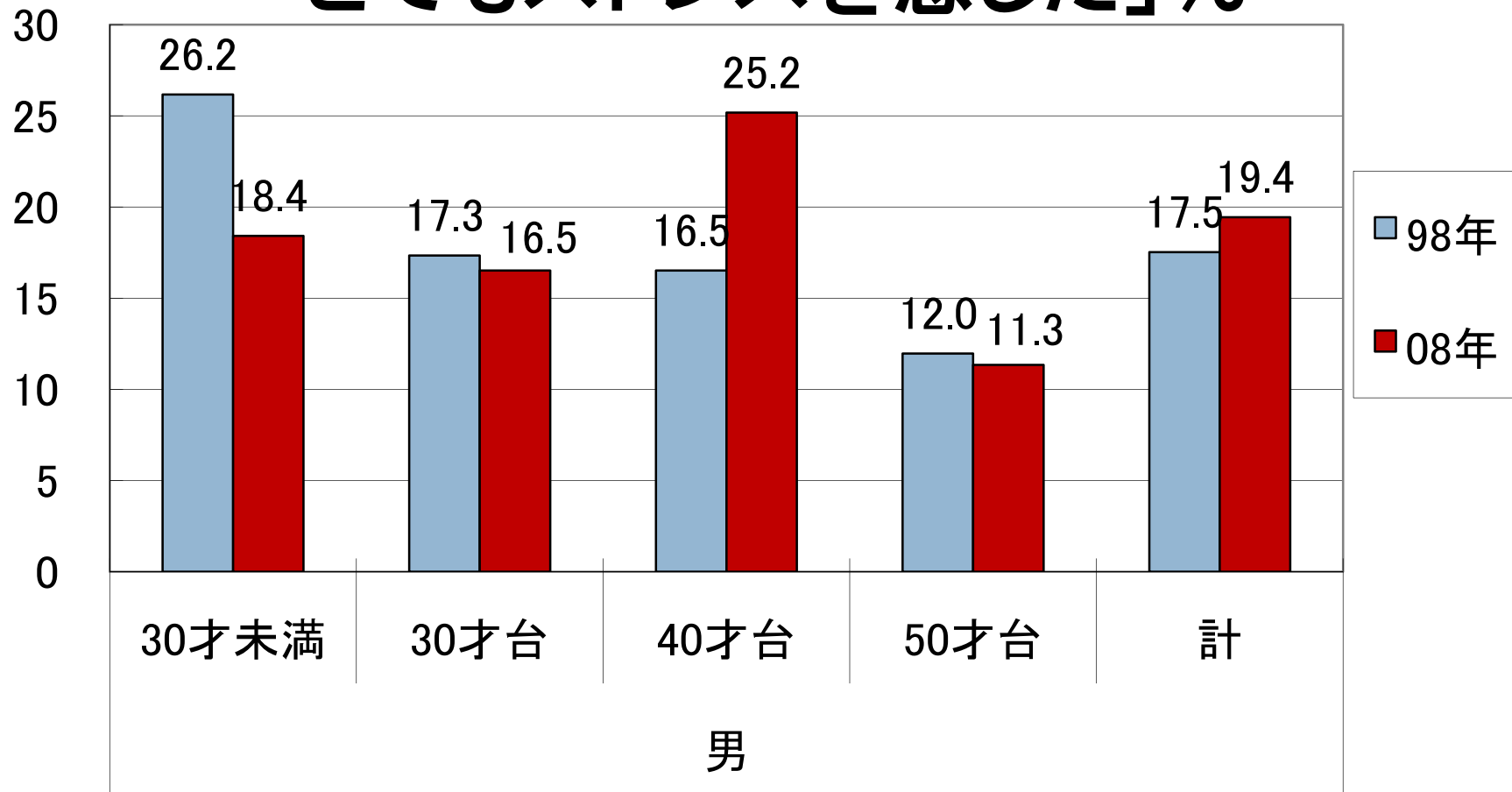


# 調査結果(6)過去1年のストレス 「とてもストレスを感じた」%



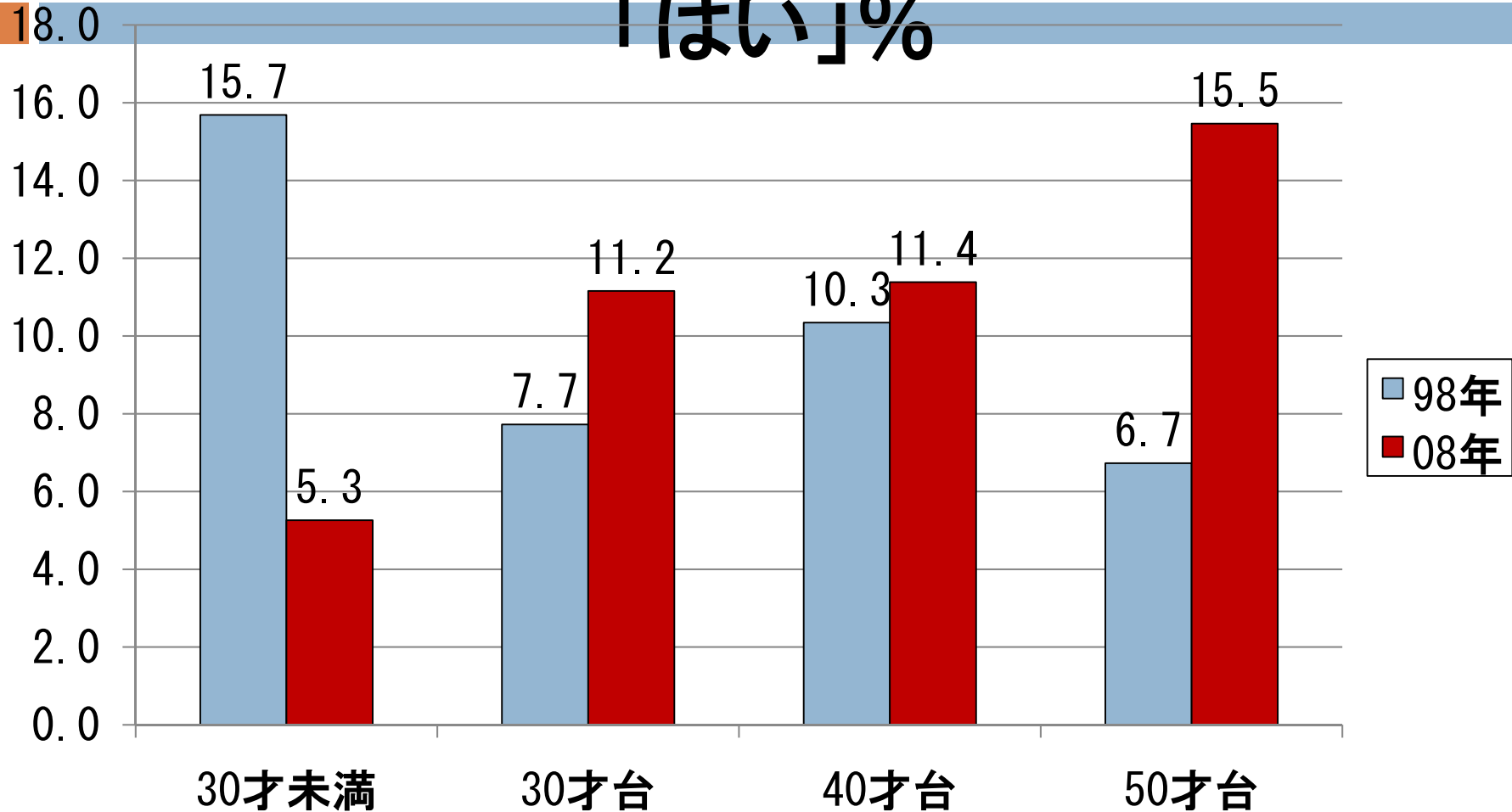
年齢別に見ると、98年調査に比べ、08年調査の方が、40才台・50才台で過去1年に強いストレスを感じているものが多い

# 調査結果(7)過去一か月のストレス 「とてもストレスを感じた」%



年齢別に見ると、98年調査に比べ、08年調査の方が、40才台で過去1カ月に強いストレスを感じているものが多い

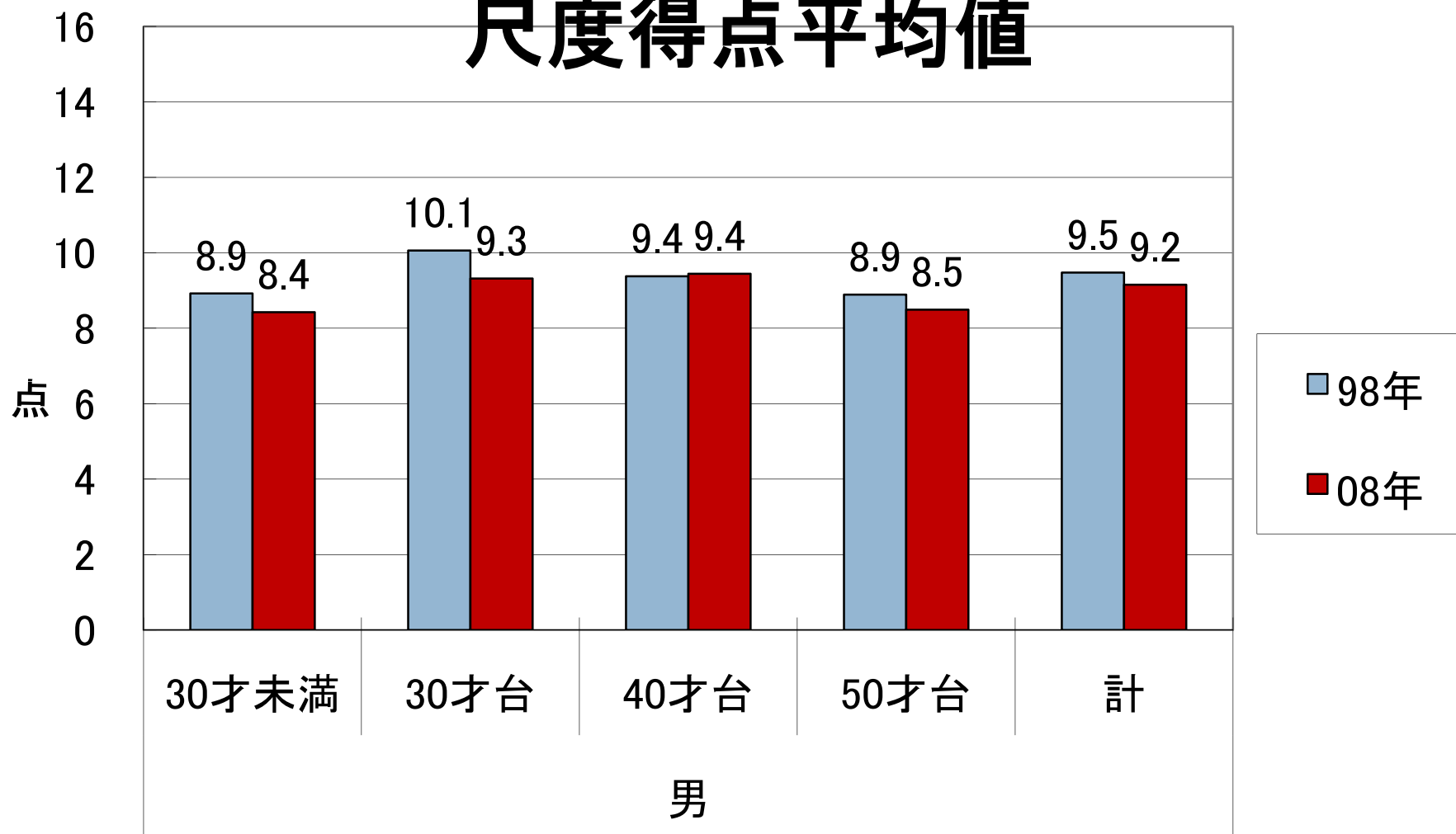
# 調査結果(8)離職念慮 「はい」%



98年調査に比べ、若年層の離職念慮が減少、50才台では増加

# 調査結果(9)仕事の量的負荷

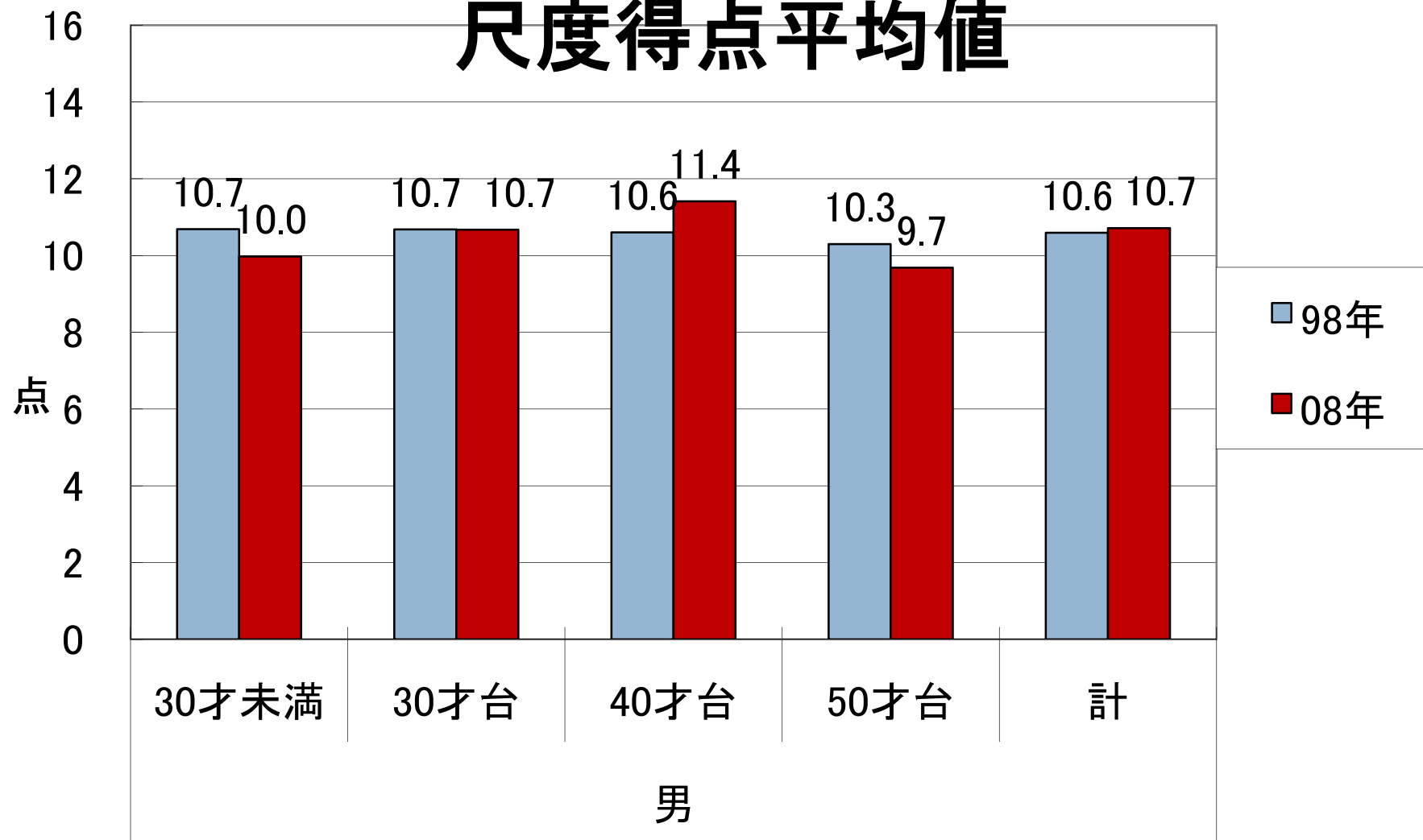
## 尺度得点平均値



40才台以外で、量的負荷は減少傾向(特に30才台)

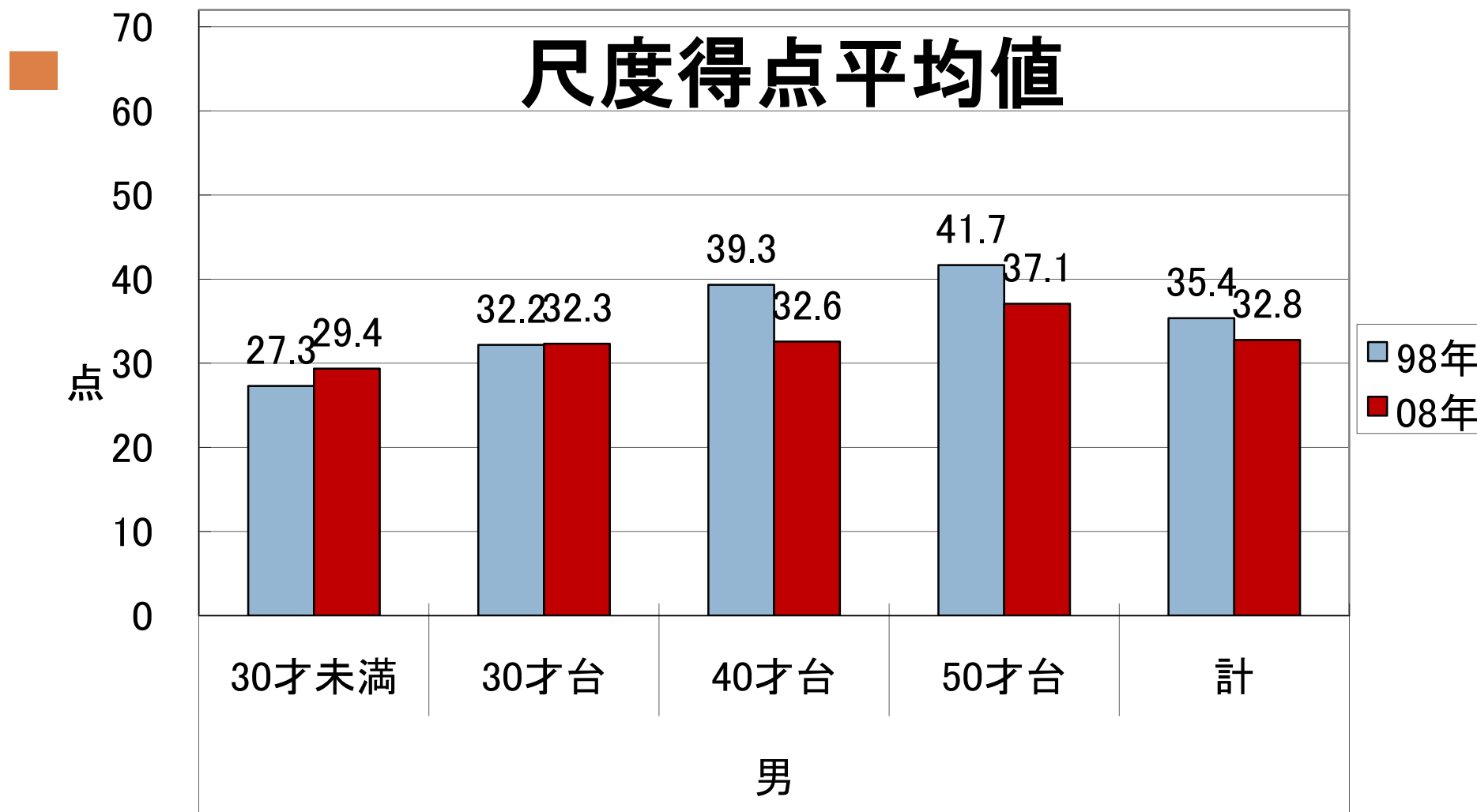
# 調査結果(10)仕事将来不明確

## 尺度得点平均値



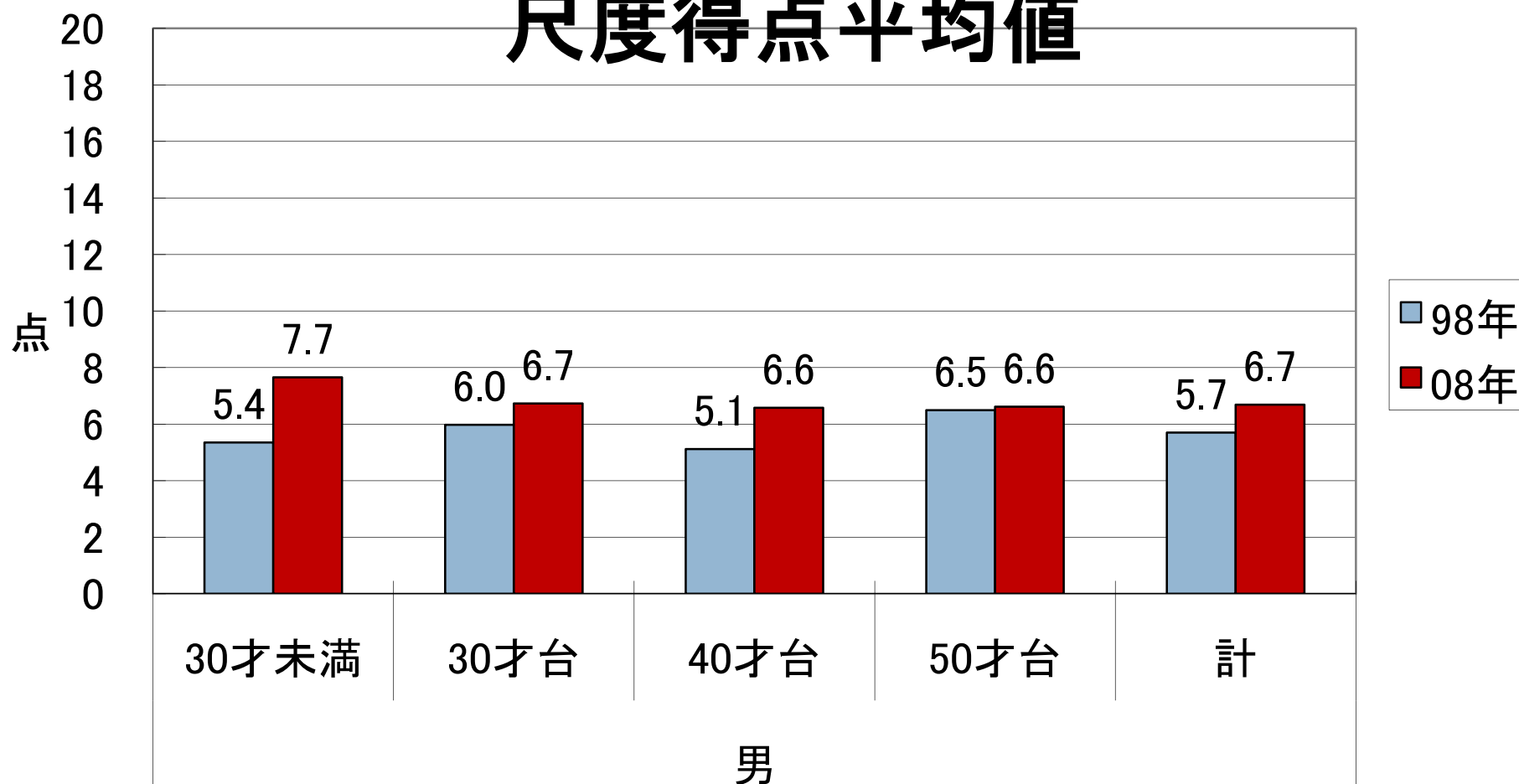
40才台で、仕事将来不明確は増加している

# 調査結果(11)仕事コントロール(裁量度)



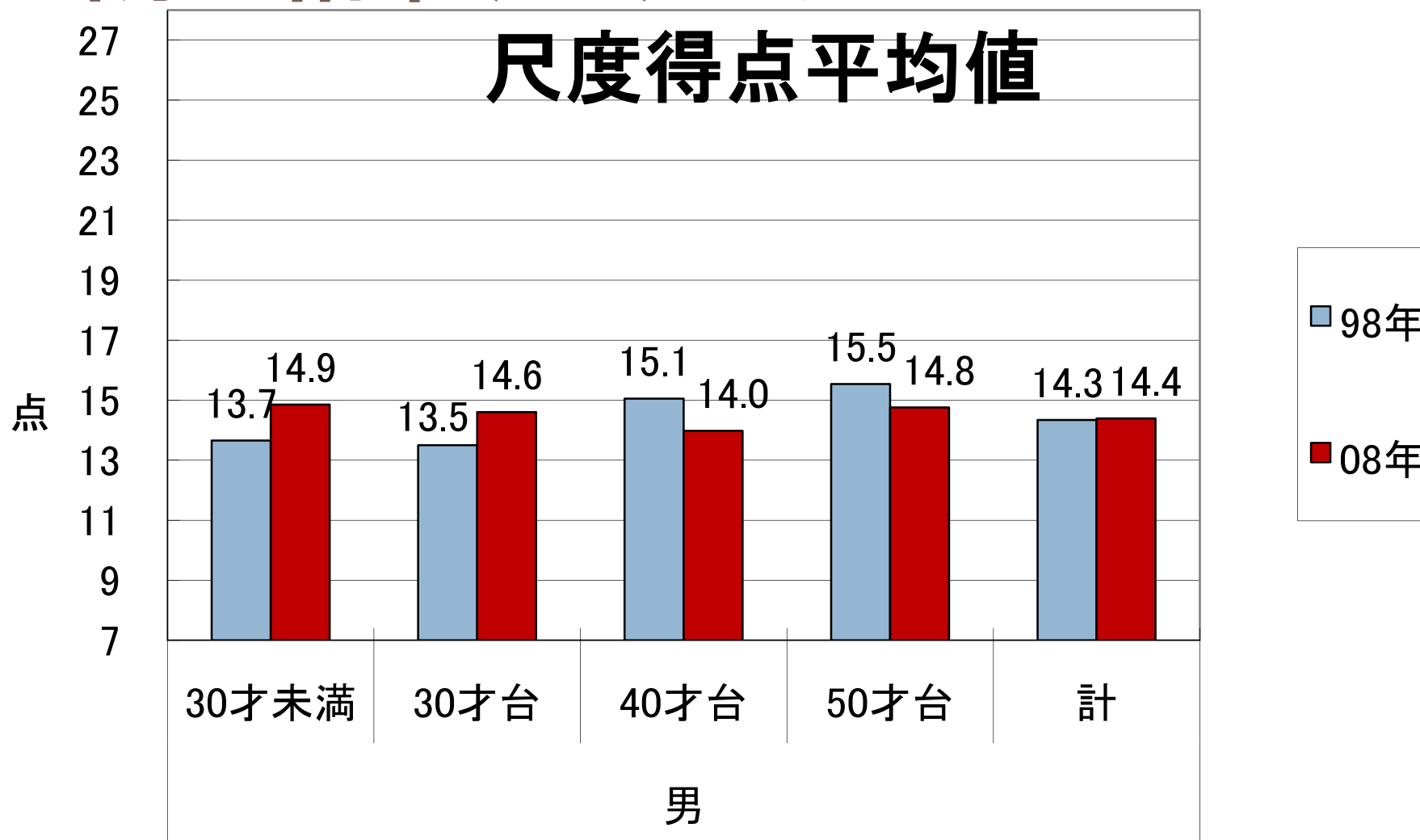
特に40才台と50才台で裁量度は減少している

# 調査結果(12)仕事役割葛藤 尺度得点平均値



特に30歳未満と40才台で仕事と家庭との葛藤が増加している

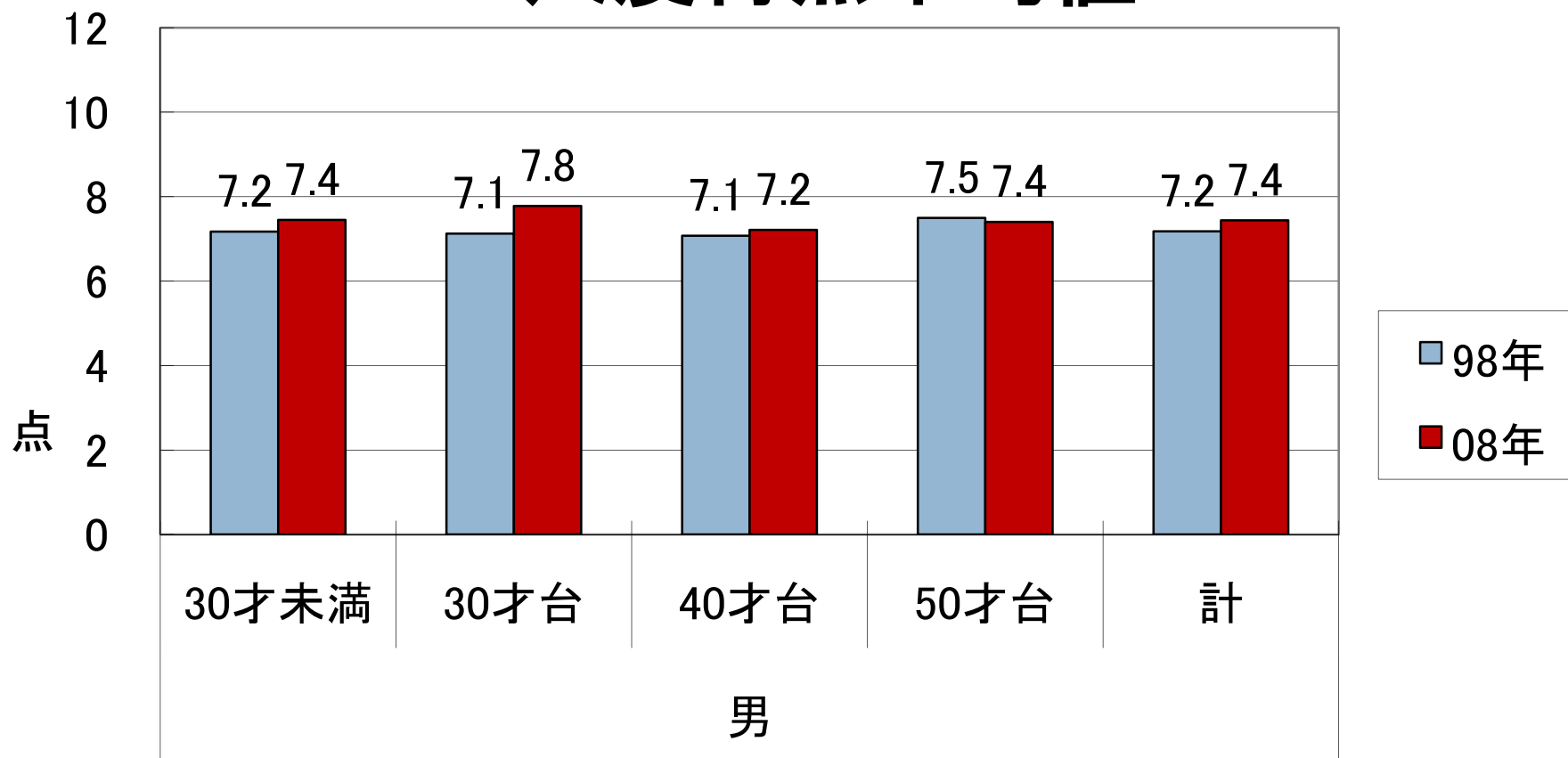
# 調査結果(13)やりがい



やりがいは30才台以下の層では増加, 40才台以上の層で減少

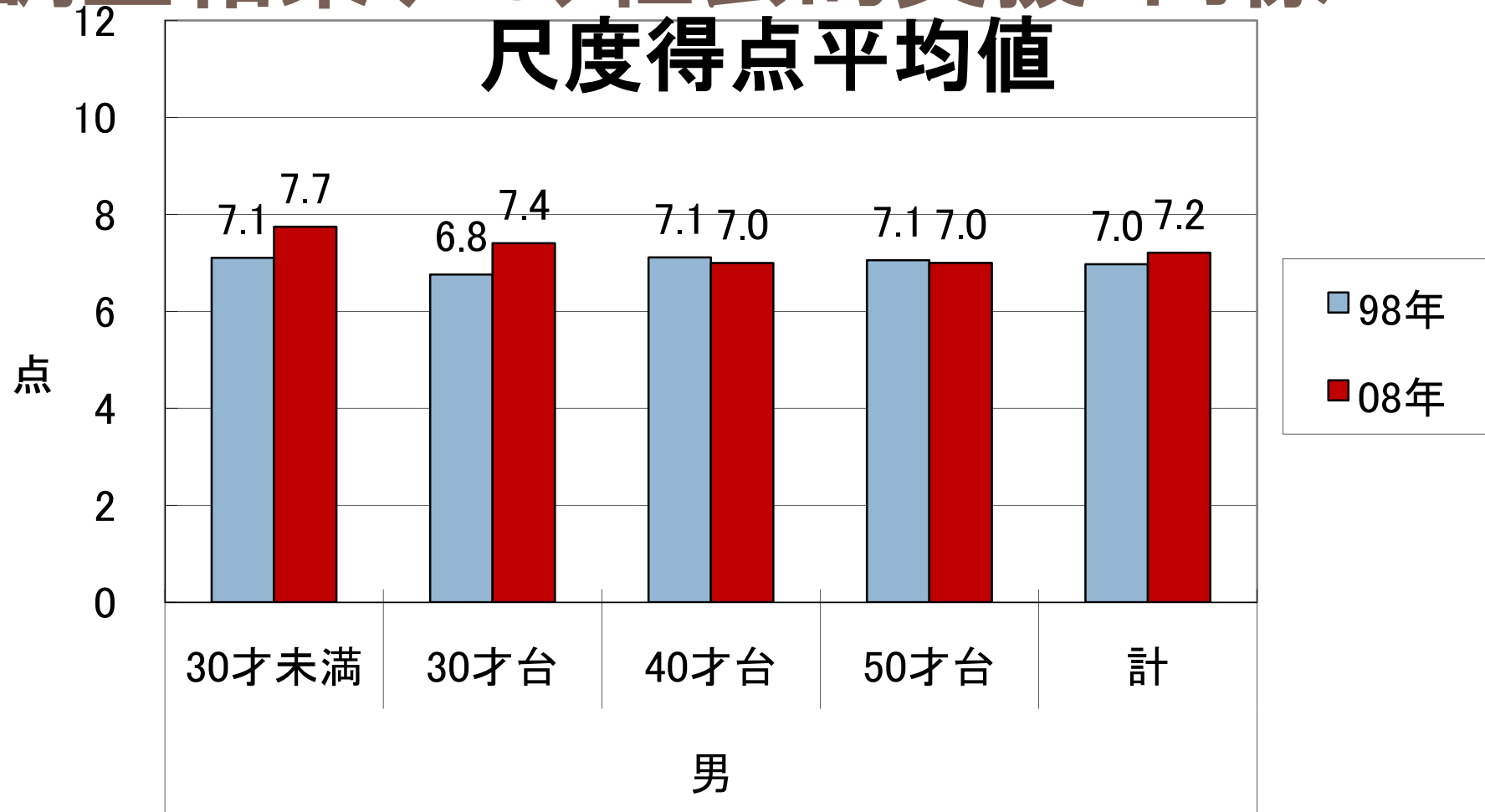


# 調査結果(14)社会的支援：上司 尺度得点平均値



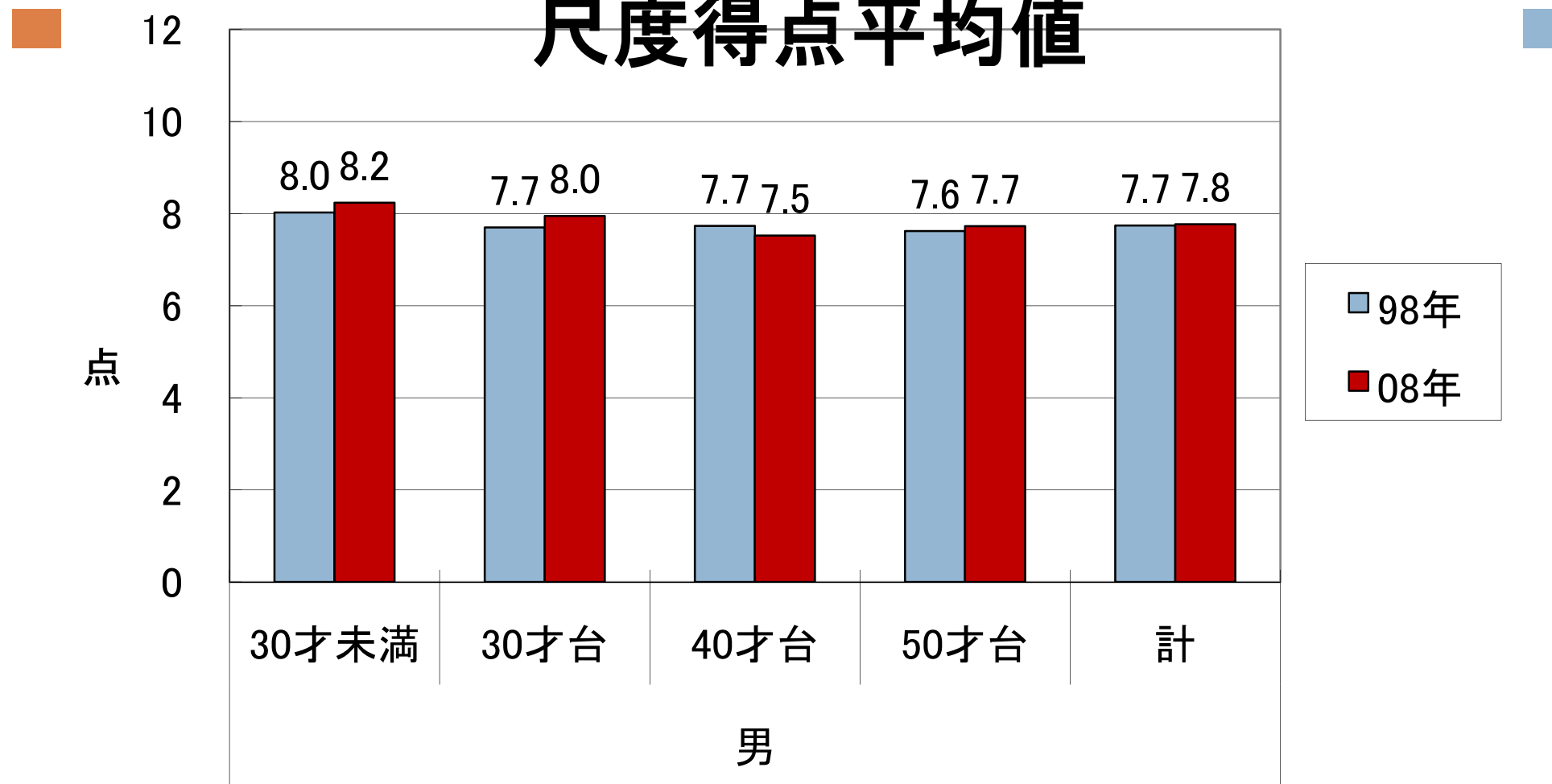
特に30才台で上司からのサポートは増加

# 調査結果(15)社会的支援：同僚 尺度得点平均値



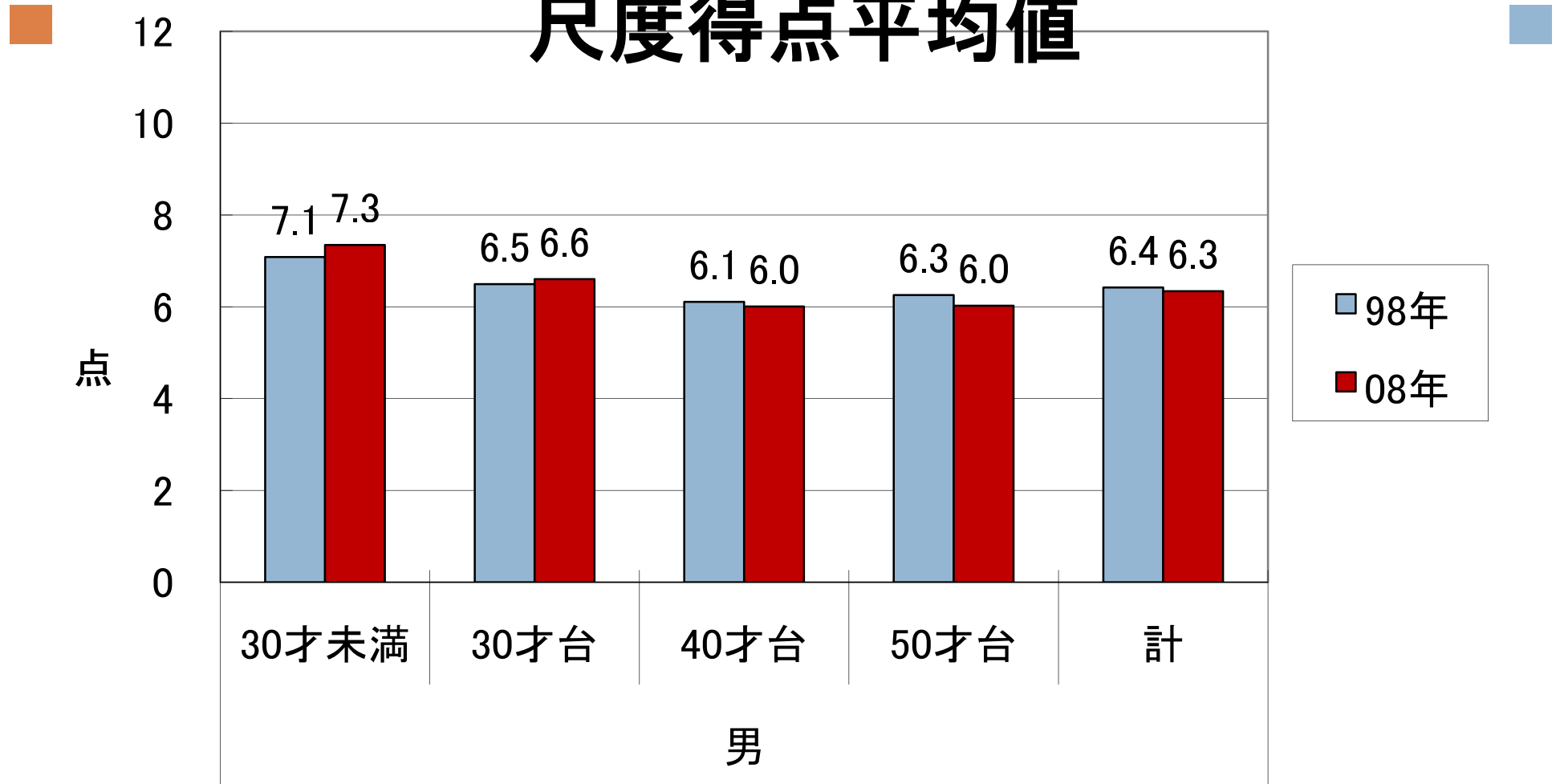
同僚からのサポートは30才台以下の層では増加，40才台以上の層ではあまり変わっていない

# 調査結果(16)社会的支援：配偶者 尺度得点平均値



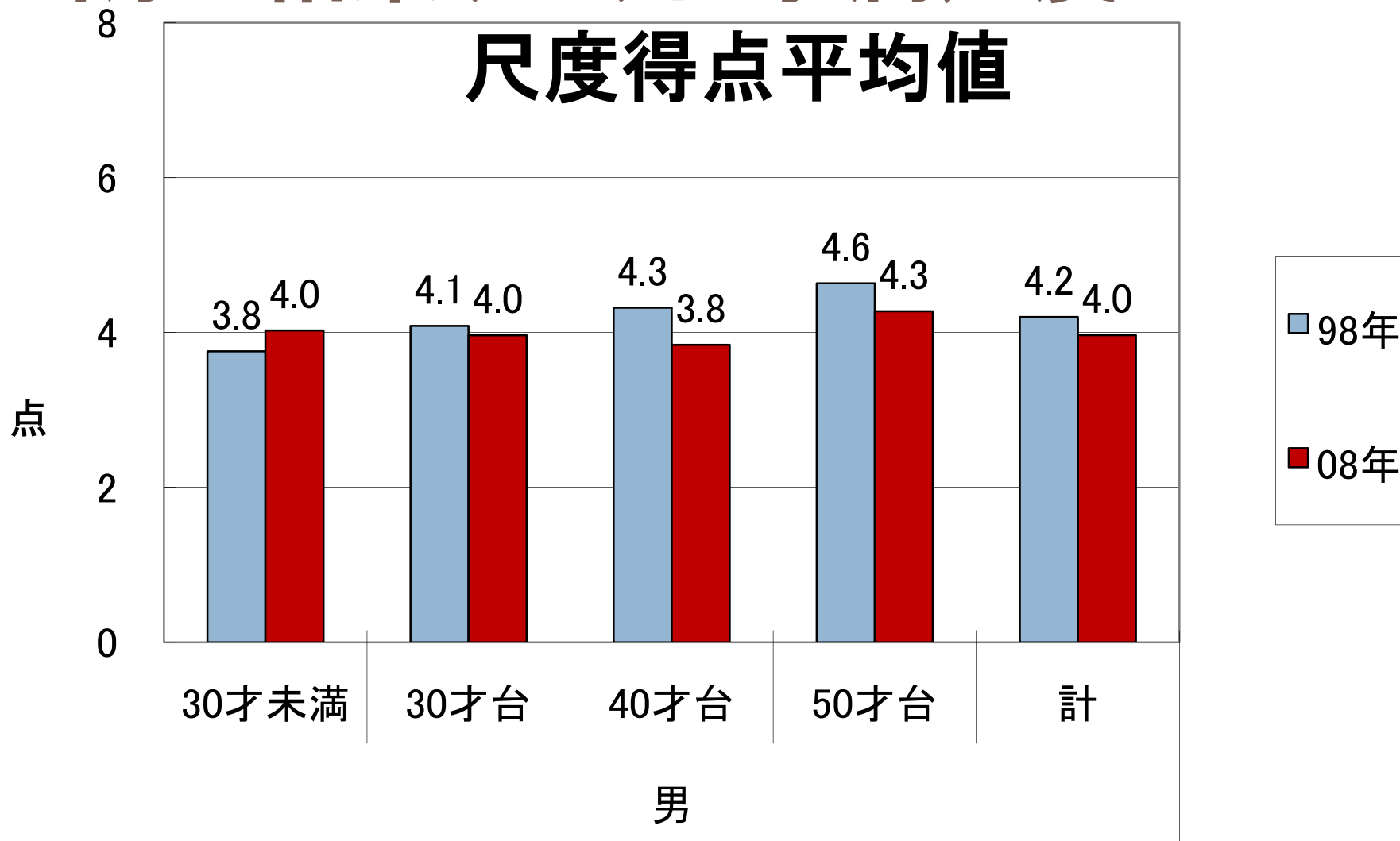
配偶者からのサポートはあまり変わっていない

# 調査結果(17)社会的支援:友人 尺度得点平均値



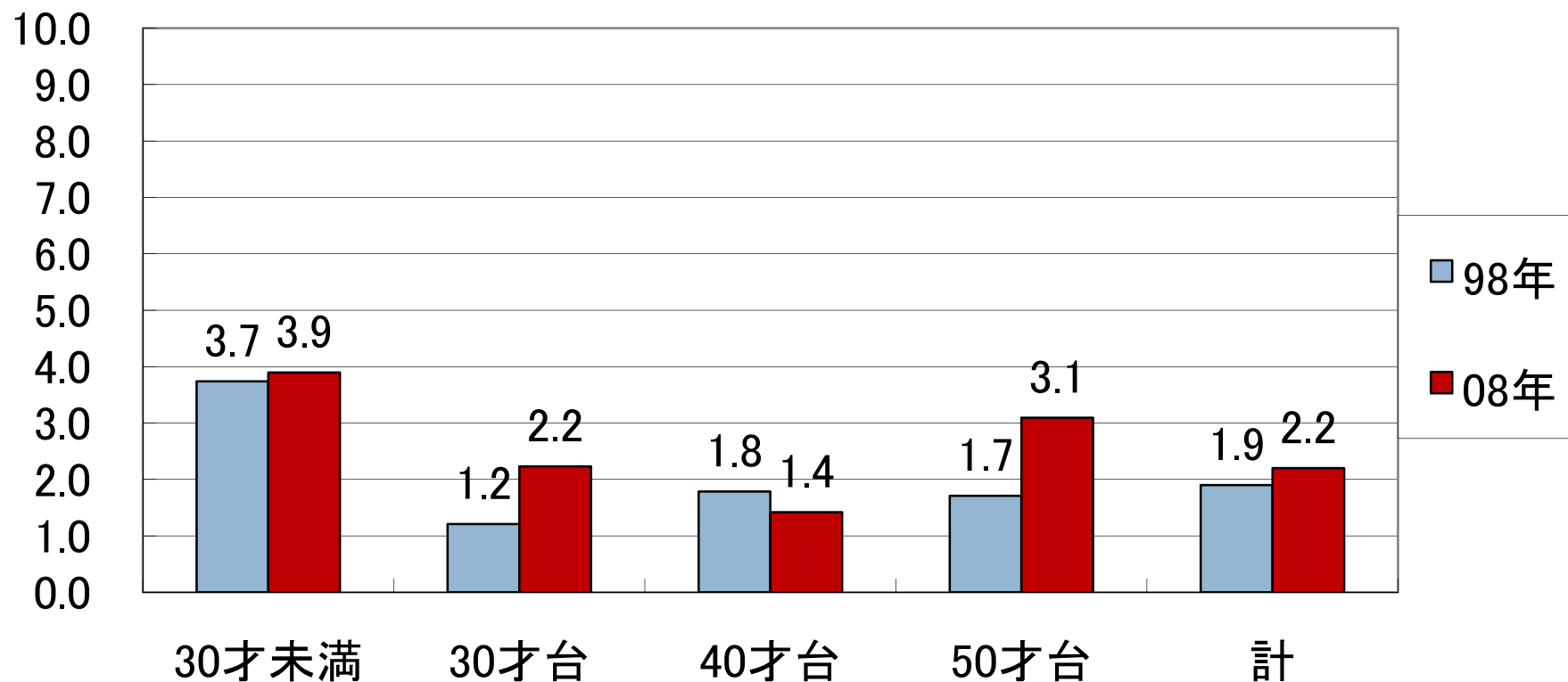
友人からのサポートはあまり変わっていない

# 調査結果(18)仕事満足度



特に40才台で、仕事への満足が減少している

# 調査結果(19)うつ状態判定 DSD陽性率(%)



統計学的に有意ではないが、50才台でうつ状態疑いの陽性率が増加している

# 調査結果(20)インタビュー

- \* 調査時、急速に職場再編が進められており、実情に合った結果だ（産業医）。
- \* 最近退職した世代と比べて、40-50才台は管理職を含めて、たいらな人が多いという印象があり、今回の結果は肯ける（衛生管理者）
- \* 中高年齢層のメンタルが悪化している一方、若い世代も、これから（4月から）休業分が給与に反映されるようになるので、そうなると直接家計に響く世代なので夏ごろから大変になるのではないだろうか（衛生管理者）
- \* 40才台の方が50才台より（メンタルヘルス指標が）悪いようだが、それは、50才台は対象となっていたが、40才台は早期退職制度の対象になっていないせいではないだろうか（総務責任者）
- \* 恐慌前から急激な組織改編が進んでおり、いくつかの部門が統合された結果、人間関係がうまくいかない面が出てきた。その影響では（総務責任者）

# 結果のまとめ

- 1: 若年層に比べ中高年齢層の自覚的健康度が低下し、ストレスの感じ方が増加。短期的な面では40才台で、長期的な面では50才台で悪化。
- 2: 中高年齢層の仕事ストレスは量的なものよりも、将来の不明確さや裁量度の低下などによるものが悪化。
- 3: 若年層ではやりがいが増加している一方、中高年齢層では低下しており、離職念慮も増加している。
- 4: ソーシャルサポートにおいては、上司や同僚からのサポートは若年層では若干増加。
- 5: 仕事への満足度は中高年で低下、うつ状態は50才台においてわずかながら悪化の傾向。
- 6: 恐慌前からの再編の影響、早期退職制度の対象、若年層はこれから悪化？といった感想。



# 考察

現時点で緊急にテコ入れすべきなのは、ストレス臨界期にいる**40才台から50才台にかけての男性労働者**へのメンタルヘルスサポートと考えられる。

とりあえず、この年代に対する**一次予防・二次予防**活動を充実させ、メンタルヘルス不調の発現を最小限に食い止めることが重要では。

経済情勢を考えると、「事業場外資源」からの予防医学的ケアをいかに効率よく職場内へ導入するかということが重要か。新設された「**メンタルヘルス対策支援センター**」などの公的資源の活用が期待される。

最後に、このような大変な時期に調査に協力してくださった関係者の皆様に深く感謝いたします。